



中央アルプスのライチョウを記した歴史的資料は先ほど御覧いただいたようなものが散見されます。

ライチョウは、こういった「岩鳥」ですとか、鶇の字を書く「鶇鳥」、「鶇」とか「雷鳥」などとして記述されておりまして、中央アルプスにおける過去のライチョウの生態を知る上でも非常に貴重なものと言えるところだと思います。

銃で撃ち取った、石で討ち取ったという記述もあるので、中央アルプスでライチョウは神聖な鳥だと思いますけれども、当時の人がどの程度神聖視していたかというのは、まだ今後の調査課題かなと思います。

それから、山岳信仰とどのように結びついていたかというのは、今後さらに資料を調査することでまた明らかになってくる部分があるのかなというふうに考えております。

以上で私からの御報告を終わります。

ありがとうございました。(拍手)

○座長(有山 義昭) 小池様、ありがとうございました。

江戸時代の文献も含めてライチョウがどういうふうに表現されていたかということで、貴重に思いました。どうもありがとうございます。

## 質疑応答

○座長(有山 義昭) それでは、最後に質疑の時間を設けたいと思うのですが、もう12時12分です。12時10分までということで予定を組んでいましたけれども、本当に一方、もしこれだけという方がいらっしゃいましたらお一方から質問を受けて、7人の発表者の方はちょっと前に御登壇もいただきまして、それで今回の第1部ということで締めたいと思います。

〔発表者一同登壇〕

○座長(有山 義昭) どなたかこれだけは質問したいという方はいらっしゃいますか。

では、前の方。

○質問者7 駒ヶ根市の北村と申します。

富山雷鳥研究会の松田さんにお聞きしたいのですが、巣の多様性は非常に興味深く拝聴いたしました。テリトリーの多様性はひなを育てるという側面で優劣の差があるのでしょうか。もし御存じでしたらお聞かせください。

○座長(有山 義昭) 松田様、お願いいたします。

○松田 勉 もう一度、ひなを育てる何とおっしゃいましたでしょうか。申し訳ありません。

○質問者7 ひなを育てる環境としては優劣の差が出るのでしょうか。

○松田 勉 そうですね。室堂平を中心にやっけていて、それで破卵数はどこが高いとか、襲われる率が高いとか、例えば70%ぐらい巣立ちが成功するような縄張と過去に30%ぐらいしか巣立ちをしない縄張があって、やっぱりそういう意味では優劣があると思います。

特に、岩場があってオコジョが住んでいるような縄張は結構食害を受けているようなデータを得ています。

○質問者7 特に標高で差があるというわけではなくて、そういった環境が……

○松田 勉 はい。オコジョとか、そういうのでは、標高的な差というよりも、その場所の環境によって違うと思います。

○質問者7 ありがとうございました。

○座長(有山 義昭) どうもありがとうございます。

ちょっと時間も押しましたので、これで第1部のほうを終わりたいと思います。

では、7名の発表者の方々はこちら前に出ていただきまして最後を締めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔発表者一同前へ進み出る〕

○座長(有山 義昭) 環境省といたしましても域内保全というのは重要なパートとしてこれからも中央アルプスのライチョウの野生復帰に向けて事業を継続していきますので、引き続きお願いしたいと思います。

それでは、いま一度、第1部の域内保全の現地での取り組みということで、最前線で活躍されている方々に対して大きな拍手をお願いしまして、終わりたいと思います。よろしくお祈りいたします。(拍手)

○司会者(本間香菜子) ありがとうございました。

私たちが日々のニュースではなかなか知ることができない様々な分野、形で尽力されている皆さんのお話を非常に興味深くお聞きいただきました。

どうぞ、改めて盛大な拍手でお送りいただければと存じます。(拍手)ありがとうございます。

〔発表者一同降壇〕

○司会者(本間香菜子) 以上をもちまして第1部は終了となります。

これより休憩のお時間を取らせていただきまして、この後、第2部の再開は午後1時—13時を予定しております。お時間までにお席にお戻りくださいますようお願い申し上げます。

そして、このお昼のお時間は、エントランスの駒ヶ根市のブースでは御当地名物のソースかつ丼を販売しておりますので、よろし

ければぜひ御賞味いただければと思います。

そのほか、希少な国産ゴマの商品などもお土産として人気となっております。

また、宮田村のブースでは人気のマルスイスキーや長野県第1号の地ビール、南信州ビールの商品もお買い求めいただけます。

そして、ライチョウグッズもたくさん取りそろえておりますので、ぜひ御覧いただければと思います。

エントランスのほうの物販コーナーでライチョウ会議駒ヶ根・宮田大会の思い出の一品を探してみてくださいませ。

この後、第2部の再開は午後1時を予定しております。

## 第2部 動物園で飼育し増やす生息域外保全の取り組み

座長 牛田 一成 (中部大学応用生物学部)

○司会者(本間香菜子) 皆様、お待たせをいたしました。

ただいまより第2部に移らせていただきます。

第2部は「動物園で飼育し増やす生息域外保全の取り組み」をテーマにお話を頂戴してまいります。

座長は中部大学応用生物学部 牛田一成様です。どうぞよろしくお願ひいたします。

〔座長・中央大学応用生物学部 牛田一成 登壇〕(拍手)

○座長(牛田 一成) 中部大学の牛田でございます。

これから4題の座長を務めさせていただきます。

記載のとおり、動物園でライチョウを飼育し、今年はずいに山に返すということができるようになりました。

動物園は、古くから珍しい生き物をお客さんに見せるというような、そういう娯楽施設としての役割は非常に歴史もありますし、古くからそういう使われ方をしてきたわけです。

ところで、やっぱりこういう近年のいろんな絶滅危惧種がたくさん出てきてしまうような状況の中で、動物園というのは希少な動物を飼育する、そういうプロフェッショナルな場所として位置づけられるようになってきて、保全、それから保護の中心的な施設として進んでいこうとされています。

ライチョウの事業に関しては、最初から動物園のそうした新しい機能性ということを意識して取り組みが進められてきています。

今回の4題というのは、その実践について最初は日動水ー日本動物園水族館協会のライチョウ保護の計画委員の委員長の秋葉先生をお願いしています。

その後の2園、那須どうぶつ王国さんと茶臼山に関しては、先ほど午前中にありましたように中央アルプスに運んだ個体を飼育していた動物園になります。

最後に、上野動物園の吉澤先生からは人口繁殖で人工授精を中心とした獣医的な技術のライチョウへの適用事例ということでお話をいただく予定です。

私も8年ぐらいライチョウに関わってまいりました。当初は哺乳類だったのですけれども、だんだん鳥の仕事が多くなりまして、今は、実は8年間ライチョウで勉強させていただいた成果に基づいて、アフリカでウガンダの動物園と協力して大型のインコのヨウムというものの保全事業を進めていたりします。

そういうことで、今回は動物園の実践としてはかなり先駆的な話をさせていただけると思っております。どうぞ御期待ください。

## 1 「ライチョウ生息域外保全の取り組み成果と今後の課題について」

秋葉 由紀 ( (公社) 日本動物園水族館協会ライチョウ計画管理者・富山市ファミリーパーク)



○座長(牛田 一成) それでは、最初に秋葉先生のほうから、よろしくお願ひいたします。

○秋葉 由紀 そうしましたら、第2部は動物園の取組について報告をさせていただきますが、まず全体的なライチョウ生息域外保全の取組についてライチョウ計画管理者である秋葉から報告させていただきます。